

(様式1-表)

令和7年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	40	豊田市長 東保見小 学校	代表	小川 敬子
------	----	--------------	----	-------

※分野【a：国際交流・国際理解、b：地域連携、c：自然体験、d：環境教育、e：学力向上、f：交流体験、g：福祉・ボランティア、h：伝統文化、iその他（ ）】から選ぶ。

テ マ	多文化共生の学校づくり	分野	a	国際交流
	サブテーマ ～かかわり合いを通して、ともに伸びていく子の育成～	i(その他)は分野を右欄に記入		
学 校 づ く り の 視 点 (ね ら い)	<p>本校には現在外国人児童（主に日系ブラジル人）が、100名ほど在籍している。どの学級にも外国人児童が在籍している状況の中で、学校づくりの大きな柱は「国際理解教育、多文化共生・共創の教育」である。異なった文化をもつ子どもたちが、お互いを理解し、相手の立場や考えを尊重しながら、共に学びを創り上げていく学校づくりをめざしている。</p> <p>互いの文化に触れて理解し合うことを支える教具の充実や、安心して活動できる環境の整備、一人ひとりに対応するための体制づくりに努め、「かかわり合いを通して、ともに伸びていく子」の育成をめざしたい。</p>			
活 動 内 容 ・ 計 画	<p>① 異文化理解 外国や日本の文化や習慣を学ぶことで、お互いを理解し合い、相手を尊重する態度が育つと考える。そのために必要となる資料や教材を準備することによって実践の幅を広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポルトガル語やスペイン語、英語の図書の蔵書の充実。各国の絵本の紹介。 ブラジルやアメリカなどの外国や日本の文化に関する資料・教材の収集及び活用。 <p>② 安心・安全な環境づくり どの子どものびのびと活動することができるよう、校内整備員を活用し、校舎内や外庭など校地内の環境整備に努める。ピア・サポートを生かした活動を推進し、異学年交流を進め、子ども同士で支えあう校風を育てる。</p> <p>③ 一人ひとりに対応するための体制づくり 教師と日本語指導員、心の相談員、学生ボランティアなど、できる限り多くの目で子どもたちを見守り、一人ひとりに寄り添った支援を充実させる。ことばの壁や文化の違いに悩む児童をはじめ、様々な困難さを抱える児童にきめ細やかに対応して一人ひとりのよさを引き出していくとともに、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応にも努める。</p>			
補 助 員 配 置	<ul style="list-style-type: none"> 校内整備員 心の相談員 			
実 績 ・ 期 待 さ れ る 効 果	<p>① 異文化理解を深めることにより、自分とは考え方が異なる相手の考えを尊重する態度が育ち、グループ活動や集団遊びを協力して行う姿が見られるようになる。</p> <p>② 安全で整った環境の中で過ごすことにより、子どもたちの心の安定とけがのない安全な生活を保障することができる。</p> <p>③ 心の相談員や学生ボランティアの活躍や教師との連携により、子どもたちの心の安定を支え、いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期対応をすることができる。</p>			
検 証 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 国際図書室の利用状況を確認する。 学校行事や学習、休み時間の活動の中で、外国人児童と日本人児童がどのようにかかわっているかを観察する。 環境整備の状況や、保健室利用者数の推移を確認する。 ボランティアや心の相談員とのかかわりの様子を観察し、相談室利用状況を確認する。 学校自己評価や保護者アンケートによる評価を行う。 			

令和7年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号(40) 学校名 豊田市立 東保見小学校

1 テーマ

多文化共生の学校づくり
～かかわり合いを通して、ともに伸びていく子の育成～

2 ねらい

異なった文化をもつ子どもたちが、お互いを理解し、相手の立場や考えを尊重しながら、共に学びを創り上げていく。

3 活動内容

①異文化理解

- ・ポルトガル語を中心とした外国語の蔵書を充実させた。
- ・多言語による各国の絵本の読み聞かせなど、日本国籍の児童と外国籍の児童が協力して活動し互いの理解を深める機会を設定した。

②安心・安全な環境づくり

- ・校内整備員による校庭などの環境整備を進めた。

③一人ひとりに対応するための体制づくり

- ・教師と日本語指導員に加え、より多くの目で子どもたちを見守り、一人一人に寄り添った支援を充実させた。
- ・心の相談員との面談、長放課を活用した交流、給食時の教室訪問を実施。
- ・相談室、はあとラウンジを活用した居場所づくり。
- ・学生ボランティアによる学習支援や活動支援を実施。

4 成果と課題

①異文化理解

- ・ワールド図書室の蔵書を充実させたことにより、絵本を介しての交流が生まれたり異文化への関心が高まったりした。令和7年度は、新入生に27名のうち、17名が外国人児童のため、日本語がまだ読めない児童が、蔵書を楽しそうに読む場面が多く見られた。また蔵書を増やしたことで、休み時間だけではなく国語の授業を通して、興味をもって蔵書を読む日本国籍の児童も増えてきた。また掲示物、展示物をリニューアルし、来室する児童の増加を促した。
- ・日本国籍の児童と外国籍の児童がペアになり、多言語による絵本の読み聞かせを定期的の実施した。この取組について「読み聞かせを一緒にしたことによって仲よくなった」「外国の絵本が面白かった。もっと他の本も友達に教えてもらいたい」等、互いの関わりや理解を深めた感想が聞かれた。

②安心・安全な環境づくり

- ・校内整備員が校庭の環境整備を行ったことにより、1年を通じて安心して活動することができた。特に草木の剪定作業、排水溝の整備をしっかりと行った。
- ・校内整備員が配置されたことにより、校務主任が校舎内の不具合やICT機器の管理・整備などに迅速に対応することができた。これにより、今年度、環境整備不良によるけがはなく、より安心・安全な環境を保つことができた。

③一人一人に対応するための体制づくり

- ・心の相談員が配置されたことにより、一人一人の子どもへの支援を充実させることができた。相談員への相談からスクールカウンセラーとの面談につなげ、より専門的な支援を継続して受けられるようにできた。給食訪問などの日頃の交流から子どももの悩みをつかみ、担任と連携して支援に当たれた例も多い。相談員によって、きめ細かでタイムリーな支援を行うことができた。心の相談員、相談主任、担任、四役と連絡ノートを使い常に児童の情報を共有することができた。
- ・学生ボランティアに、特別支援学級と1年生教室で支援活動を行ってもらった。特別支援学級の児童が、ボランティアの応援を受けて安全に自信をもって活動できた。また、1年生教室では、ボランティアが全体の様子を見守る中で、担任が個別支援をすることができた。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ホームページの「特色ある学校づくり推進事業」を行事ごとに更新し、事業に関連する取組などを紹介している。
- ・ホームページで日々の活動を紹介する中で、ワールド図書室での読み読みの様子なども紹介している。
- ・ホームページを更新し、各学年の取組を紹介した。